

宇部市成長産業推進協議会 運営委員会 議事録

1 日時 令和4年7月29日(金) 13:30 ~15:30

2 場所 宇部市役所3階 3-3, 3-4 会議室

3 出席者(敬称略)

<運営委員>

	所属・役職	氏名	代理出席
商工団体	宇部商工会議所 会頭	杉下 秀幸	
企業	UBE株式会社 上席執行役員	三浦 英恒	宇部渉外部 部長 井原 毅
	セントラル硝子株式会社 執行役員 宇部工場長	毛利 勇	
	西日本電信電話株式会社 山口支店長	中川 健一	欠席
	株式会社ヤナギヤ 代表取締役社長	柳屋 芳雄	
	ユーピーアール株式会社 代表取締役 社長執行役員	酒田 義矢	欠席
大学等	国立大学法人山口大学 大学院医学系研究科長・医学部長	篠田 晃	
	国立大学法人山口大学 大学院創成科学研究科長・工学部長	山田 陽一	
	国立大学法人山口大学 大学院技術経営研究科長	福代 和宏	
	独立行政法人国立高等専門学校機構 宇部工業高等専門学校 校長	山川 昌男	副校長 内堀 晃彦
金融機関	株式会社山口銀行 執行役員 宇部支店長	中嶋 羊治	
	株式会社西京銀行 執行役員 宇部支店長	岡田 一夫	
	西中国信用金庫 宇部支店長	片岡 謙蔵	
支援機関	地方独立行政法人 山口県産業技術センター 理事長	川村 宗弘	プロジェクト推進部長 松本 佳昭
	公益財団法人 やまぐち産業振興財団 副理事長	福田 浩治	
自治体	山口県商工労働部長	小関 浩幸	新産業振興課長 兼清 未知留
	宇部市長	会長 篠崎 圭二	

<関係者>

株式会社 New Space Intelligence 代表取締役社長 長井裕美子

<事務局>

産業経済部 部長 濱田 修二、次長 佐々木 信

成長産業創出課 主幹 弘中 秀治、副課長 新原 英宜、係長 清永 浩幸、

主任 奥嶋 貴子

## 4 内容

### (1) 会長挨拶

### (2) 成長産業の創出・育成に向けた取組報告

別紙、資料3により事務局（佐々木次長）が内容説明。

— 説明に対する質疑 —  
質疑なし

### (3) ときわ公園実証フィールド活用プロジェクトに関する報告

別紙、資料4により事務局（弘中主幹）が内容説明。

— 説明に対する質疑 —  
質疑なし

### (4) 事業プロジェクト紹介

衛星データパイプライン開発とインフラ監視事業の創出【(株) New Space Intelligence】

### (5) 意見交換

#### 【運営委員の主な発言概要】

- ・従来は、事業が形になってから資金の相談であったが、今は、人口減少、事業承継問題があり、ベンチャー企業や新たな事業に対して、いかに支援していくかが重要となる。情報の集約や展開が肝になっており、産学公金が連携したこのような会議を重ねることで形にしていきたい。何ができるのかを一緒になって考えていきたい。
- ・国では、財政出動による産業振興をしてきたが、ここ20年間、結果がなかなか出ていない。今の日本は「待ったなし」の状況である。事業を行う上では、付加価値額を上げていき、日本にお金が落ちるものにしていかないと成り立っていかない。
- ・イノベーションプロジェクトの取組について頑張られている印象を受けた。各取組で想定されるマーケットの規模についても把握してもらいたい。
- ・業種によっては絶滅産業というものがあり、ものづくりの取組において、非常に難しいものは無理だが、大概のものは作れると思うので協力していきたい。
- ・山口県のやまぐち産業イノベーション促進補助金の採択9社のうち7社が宇部市の企業ということも宇部市のポテンシャルの高さを示している。
- ・地元の中小企業へ向けて、協議会の各プロジェクトの認知度の向上に協力したい。ときわ公園の実証フィールドプロジェクトについても、ときわ公園の活性化にもつながるので、ぜひ頑張ってもらいたい。
- ・いかにシーズを提供していくか。眠っているシーズを掘り起こして、ニーズと結び付けていかななくてはならない。また、地元の人と地元でシーズを提供し、宇部市の成長産業の創出に協力していきたい。

- ・とびぬけた技術を持っているスタートアップであっても、1つのシーズだけでなく、次から次に出てくることが大切。裾野の広い取り組みが必要である。マーケティングによる「ニーズをつくるか、ニーズを作り出せるか」の視点が大切である。
- ・人材抛出が一番の役割であると考えており、その取組に力を入れている。成長産業の対象は、ターゲットは、世界と考える。人を育てながら、宇部市に協力していきたい。
- ・昨年度までは、やまぐち産業イノベーション促進補助金については、宇部市の事業者からの応募は少なかつたものの、今年度は増えている。これは協議会の取組の成果と思う。
- ・護送船団方式となると、お互いに距離があり、微妙な隙間が空いているケースが多い。市でリーダーシップをとってもらえると心強い。
- ・産業振興の中でも、新産業の推進に関しては、強いところをより強くしていくことがシャワー効果も期待でき、重要となる。市の補助制度についても、県と同じベクトルとされていることで、より大きな推進力を生み出すことができる。今までの取組を基盤にして、新たに取組んでいきたい。

## (6) まとめ（会長）

課題とシーズの共有などの宿題もいただいた。今後の方向性、取り組みの方向性をまとめさせていただいて、皆様にご報告したい。

協議会の内容について、このまま進めさせていただくことでよろしいか。

→ 異議なし

ありがとうございます。本日までご説明した取り組みを進めていく一方で、本日までいただいた宿題も確実に進めていながら、よりよい成長産業の創出・育成に向けて取組んでいきたいので、皆様のご協力を今後ともお願いしたい。

【取材 宇部日報社、防長経済新聞社】

【配付資料】

- |                              |      |
|------------------------------|------|
| ・ 運営委員会委員名簿                  | 資料 1 |
| ・ 配席図                        | 資料 2 |
| ・ 成長産業の創出・育成に向けた取組報告         | 資料 3 |
| ・ ときわ公園実証フィールド活用プロジェクトに関する報告 | 資料 4 |